

二〇二〇年度

入学試験問題

(二月二日午後)

国語

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があったら、最初に問題用紙十ページ、**解答用紙二枚**を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、記号・句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

次の(1)・(2)・(3)の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上、省略した部分があります。)

## (1)

部屋に入って 少したって

レモンがあるのに

気づく 痛みがあつて

(A) 傷を見つける それは

おそろしいことだ 時間は

どの部分も遅<sup>おく</sup>れている

これは北村太郎の「小詩集」と題する四篇<sup>へん</sup>の短詩の中の初め的一篇であるが、〈時間はどの部分も遅れている〉という気がかりな言葉がある。どうして時間はどの部分も遅れているのか、それは何故おそろしいことなのか。

① 部屋に入って少したってレモンがあるのに気づいた——匂<sup>にお</sup>いによって気づいたのか、あるいは鮮<sup>あざ</sup>やかな色によって気づいたのか、ともあれ、レモンはそこにあると気づかれる前から部屋にあったものだ。まずここに一つの遅れがある。次ぎに、ある痛み<sup>いたみ</sup>に気づいて、傷を見つけた。本当は傷がまずあつて痛みはあとなのに、痛みがあつて傷に気がついた。ここにも一つの遅れがある。② 人は痛みがなければ傷のあること<sup>こと</sup>にいつまでも気がつかないでいるのだろうか。おそらく、そういうものなのだろう。

③ 同じようなことは世間<sup>よこ</sup>にいくらかもある。鉾山<sup>ぼくざん</sup>爆発事故がある。列車火災事故がある。そういう事件が発生してはじめて、その事件が起こるべくして起こったことに気づく。事件という形で社会の痛みになるまで、傷——病根<sup>びょうこん</sup>そのものは気づかれず時間が経過する。つまり〈時間はどの部分も遅れている〉というわけである。

この詩には深い洞察<sup>しんさつ</sup>がある。社会的事件を持ち出すまでもない。われわれ自身の中でも④〈時間はどの部分も遅れている〉たとえば、黒田三郎の「ただ過ぎ去るために」という詩の一節にもこんな言葉がある。

過ぎ去ってしまったからでない  
それが何であるかわからない何か  
それが何であったかわかったときには  
もはや失われてしまった何か

おそらくこれが時間というものであり、人間自身なのだろう。

(吉野 弘『詩のすすめ』による)

## (2)

「気づき」は非常によく使われる言葉です。誰もが一日に何度も何度も口にし、誰もが何度も何度も耳にしているのではないのでしょうか。この文を書き始めるに際して、ちょっと思い浮かべてみたのですが、今日すでに「気づき」という言葉を使っていました。

「あつたわ。気づつかへんかった」

※家内がいつも作ってくれている冷茶を飲もうと思つて冷蔵庫をのぞいたのですが、見つかりません。無いのかなと思つてドアを閉めました。それを妻に見られていたのですね。

「何探してるの?」

「もうお茶無いの?」

「あるでしょう?」

言われて、もう一度ドアを開けてみると、なんとあるべきところにちゃんとあるではありませんか。

(中略)

「うーん。…… ( B )」

NHKの『鶴瓶の家族に乾杯』の一場面です。ある町を取材した笑福亭鶴瓶さんが、公園でソフトクリームを食べている小学生の子のグループに遭遇します。鶴瓶さんは、その子たちがバレエをやっていると知り、そのバレエ教室に子供たちと一緒に押し掛けます。その子たちもバレエの練習に戻つて一汗かきます。その時鶴瓶さんが「何でバレエ始めたの?」と尋ねたのに対する、一人の子の答え

がこれです。

この子にすれば、自然の成り行きでバレエを始め、それが生活の一部になってしまっていました。突然、理由を尋ねられても明確な答えがあるわけでもないのです。実に自然で、かつ質問にもぴったりの、自分のこのころの動きの表明です。

このように「気づき」という言葉は、われわれが毎日、毎日、気楽に使い散らしている言葉です。いったい何に気づいたり、気づかなかつたりしているのでしょうか？ つまり、気づきの対象は何なのでしょう？

具体的には、モノだったり、交通標識だったり、身ぶりだったり、取材対象の不在だったり、そうかと思うと、自分の行動変化だったり、さまざまですが、どれも自分のこのころの変化であるという点に共通点があります。

目の前の冷茶に気づくことのどこがこのころの変化なのだ、と思われるかもしれません。

冷茶は冷蔵庫に存在していますが、冷茶があるかな、と冷茶を探しているのはわたしです。わたしが冷茶の存在に気づかなければ、つまりわたしの注意が冷茶を捉えなければ、わたしのこのころに冷茶が登場することは「無い」のです。物理的な空間には存在しても、心理的なこのころの空間には存在しないのです。

そういう意味で、気づきの対象は決して冷茶そのものではなく「冷茶を見つけた」というこのころの動きなのです。このこのころの動きが起こらない限り、こころが描き出す冷蔵庫には冷茶は存在しません。

※気いつかへんかった・・・気がつかなかった

※家内・・・妻

(山鳥 重『気づくとはどういうことか』による)

二〇一一年三月十一日に東北地方を中心とする東日本を襲った大地震と大津波、そして福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、科学のことは専門家に任せておけば大丈夫だという安心感は大きく揺らぎました。今回の震災や事故について、記者会見に臨んだ政府関係者や科学者からは「想定外」という言葉が盛んに発せられました。これを責任のがれの言い訳と感じた人は多かつたと思います。でも少し科学者と話をしてみれば、必ずしもそうばかりではないことがわかります。

ある地震学者はいいました。「地震学は経験に基づく学問なので、一度も起きたことがないことを想定して何かをしなさいとはいえないのです」。つまり、過去に起きた地震の記録やトップクラスといわれる観測網をもってしても、今回の地震は予測できなかったということなのです。となればこれからの防災計画は、マグニチュードいくつ、といった数値を前提とする耐震基準だけでなく、防災教育や避難路や情報ネットワークのあり方などを総合的に組み合わせ、どんな規模の震災が起きたとしても被害を軽減できるようにするためにはどうすればいいか、を前提とするシステムをつくる必要があることに気づきます。

原発事故についても、何が本当に正しいのかが判然とせず、次々と押し寄せる情報に誰もが振り回されました。放射線量測定器の正しい使い方もわからない。でも測らないではいられない。幼い子どもをもつお母さんたちをはじめ一般市民の中には、科学者を講師に招いて勉強会を開いた人たちもいます。⑤情報の海に溺れそうになりながらも、これまでの科学研究でわかっていることとそうでないことを選り分け、手にしたデータをもとに自分の頭で判断しようと動き始めました。⑥これまでどこか遠いもののように思っていた科学は、私たちの日々の暮らしやからだに密接に結びつくこと、つまり私たちの内部にあると感じた人も多かつたのではないのでしょうか。

〔特別授業 3・11 君たちはどう生きるか〕 最相 葉月『理科』による)

問一 (1)の文には次の一文が抜けています。どこに入りますか。直後の五字を抜き出して答えなさい。

レモンに気づくという行為が、レモンの存在に遅れている。

問二

本文中の(A)には「少したつて」と同じ意味の言葉が入ります。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつも      イ 今にも      ウ さらに      エ やがて

問三

——線部①「部屋に入って少したつてレモンがあるのに気づいた」とありますが、(2)の内容の場合、a「部屋に入る」とb「レモンがあるのに気づいた」とに当たることがらの組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア a バレエを始めた理由      b 鶴瓶さんの質問  
イ a 鶴瓶さんの質問      b バレエを始めた理由  
ウ a 鶴瓶さんに会った感動      b バレエ教室に押しかけられた理由  
エ a ソフトクリームを食べる理由      b 鶴瓶さんに会った感動

問四

——線部②「人は痛みがなければ傷のあることについてまでも気がつかないでいる」とありますが、具体的にはどういうことですか。(3)の内容から考えられることを、説明しなさい。

問五 — 線部③「同じようなこと」とありますが、どういうことですか。(1)の文中の言葉を用いて説明しなさい。

問六 — 線部④「時間はどの部分も遅れている」とありますが、同じことを意味している部分を(2)の文中から抜き出す場合、最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この子にすれば、自然の成り行きでバレエをはじめ、それが生活の一部になってしまっていました。
- イ 「気づき」という言葉は、われわれが毎日、毎日、気楽に使い散らしている言葉です。
- ウ 冷茶は冷蔵庫に存在しています。
- エ このところの動きが起こらないかぎり、こころが描き出す冷蔵庫には冷茶は存在しません。

問七 本文中の( B )にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア バレエが好きだから
- イ 小学校一年生からです
- ウ 気づいたらやってた
- エ お姉ちゃんに教えてもらったんだよ

問八 — 線部⑤「情報の海に溺れ」とありますが、それはなぜですか。(3)の文中の表現を用いて二十字以内で答えなさい。

問九

——線部⑥「これまでどこか遠いもののように思っていた科学は、私たちの日々の暮らしやからだに密接に結びつくこと、つまり私たちの内部にあると感じた」とありますが、これを(2)の文中ではどのように表現していますか。  
(2)の文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問十

「気づき」というテーマで、あなたの体験をもとに、二百字以内で書きなさい。

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

セカイデハマイトシシヨクヨウニセイサンサレテイルシヨクリヨウノサンブン

ノイチニアタルジュウサンオクトンガステラレテイマス。ニホンノヨウナセン

シンコクデハタベノコシヤシヨウミキゲンギレナドシヨウヒダンカイデステラ

レルタバモノガオオイデス。タベルシアワセヲワカチアエルセカイヲツクルタ

メニモヒトリヒトリノドリヨクガヒツヨウナノデス。

三

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) 卷末の資料を読む。
- (2) 寒さが骨身にしみる。
- (3) 乳歯がぬける。
- (4) 神仏を尊ぶ。
- (5) 駅に至る道を歩く。
- (6) ワールドカップがカイマクする。
- (7) ガソリンをホキユウする。
- (8) 光がハンシヤする。
- (9) 本をランザツに置く。
- (10) ムネの内を語る。

四

次の(1)～(3)の漢字の総画数を算用数字で答えなさい。また、(4)・(5)の漢字の白抜き部分は何画目に書くか、算用数字で答えなさい。

(1)

縦

(2)

裏

(3)

痛

(4)

誠

(5)

卵



